

## 1.2 腸管内容物排除(洗浄)薬

## ●ピコブレップ(フェリング・ファーマ)

1包中：ピコスルファート10mg  
酸化マグネシウム3.5g,クエン酸12g  
用時150mLに溶解.

他剤との混合禁.

## 【警告】ニフレック参照

【特】a.ピコスルファート(刺激性下剤)  
を配合.

b.服用量が少ない.

c.服用後,透明飲料を摂取  
(水のみは避け,半分以上は  
お茶,ソフトドリンクとする)

【効】大腸内視鏡検査,大腸手術時  
の前処置として腸管内容物の排除.

【用】1回150mL溶解液を  
検査又は手術前に, 2回服用.

- 1回目：150mL服用後,  
透明飲料250mLを数時間で  
最低5回以上摂取
- 2回目：150mL服用後,  
2時間前までに,透明飲料250mLを  
最低3回以上摂取.
- 前日+当日に服用の場合：  
前日は低残渣食,  
当日は透明飲料のみとし  
前日の夜と,  
当日の朝(4~9時間前)服用.
- 前日に2回服用の場合：  
前日は低残渣食,  
当日は透明な飲料のみとし  
前日の夕及び  
1回目服用6時間後の夜の2回投与.
- 脱水を避けるため  
適宜透明飲料を追加.
- 検査,手術が午後の場合→  
前日+当日とする.

【体内動態】ピコスルファート：

ピーク2時間,半減期7.4時間.

【禁・慎・注・患】ニフレック参照.

【禁】a.急性腹痛→腸管蠕動亢進で悪化.  
b.重度の腎機能障害Cr<30→高Mg血  
症.水分大量摂取

→腎機能に負荷→悪化.

【慎】1.うっ血性心不全,心機能障害  
→電解質変動で心機能抑制.

2.軽度又は中等度の腎機能障害  
→電解質異常.

3.高Mg血症.

4.重度の活動性炎症性腸疾患  
→症状悪化.

【注】1.高齢者,腎機能障害,心機能障害  
等の電解質異常のリスク

→低Na血症又は低K血症等に注意.

水のみ摂取→電解質異常.

2.排便に伴う腸管内圧変動→めまい,  
ふらつき,一過性の血圧低下等.

【併】B.慎：a.テトラサイクリン系,  
フルオロキノロン系,鉄剤,ジゴキシン,  
クロロプロマジン,ペニシラミン  
等の効果減弱.

b.利尿剤,ステロイド剤,強心配糖体,  
リチウムで低K血症.

c.NSAID又はSIADHを誘発する三環  
系抗うつ薬,SSRI,抗精神病薬,カルバ  
マゼピン等で水分貯留,電解質異常.

d.酸性薬物の効果減弱.

e.塩基性薬物の効果が増強.

【副9%】A.重大：a.アナフィラキシー,  
b.腸管穿孔,腸閉塞,鼠径ヘルニア嵌頓,

c.虚血性大腸炎,d.高Mg血症,

e.低Na血症.

D.過敏症,血中Mg↑,血中ビリルビン  
↑,血中リン↓,血中K↑,頭痛でんかん,  
大発作痙攣,痙攣,錯乱状態,右脚ブ  
ロック,悪心,直腸炎腹痛,便秘禁,大腸  
炎,嘔吐,肛門周囲痛,アブタ性回腸潰  
瘍,下痢,AST↑,ALT↑,肝機能検査異  
常,尿中血陽性,血中尿素↓,尿中蛋白  
陽性,APTT延長,リンパ球数↓,好中球  
数↑,血小板数↑,白血球数↓,白血球  
数↑,発疹(紅斑性皮疹,斑状丘疹状皮  
疹,蕁麻疹,紫斑を含む)その他異常感,  
悪寒.